

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 21年 6月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	4099400022		
法人名	社会福祉法人 サンヒルズふくち会		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地 (電話番号)	〒822-1212 福岡県田川郡福智町弁城3081-1 (電話) 0947-48-3187		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年6月22日	評価確定日	平成21年 7月 9日

【情報提供票より】(平成21年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人	非常勤 1人 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	(新築) / 改築 (築5年目)
建物構造	木造モルタル 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 ~ 37,500 円	その他の経費(月額)	光熱水道料 6,000 円
敷金	有 () 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 390 円
	夕食	410 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年5月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諫山医院 ・ 高山病院 ・ 田中歯科医院 ・ はやし眼科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほのぼのは、豊かな自然に恵まれた田園地帯の中の住宅地の一角にある。門を入ると、イングリッシュガーデンの色とりどりの花が咲き乱れ、思わず見とれてしまう風景である。管理者や職員は、「利用者一人ひとりのリズムで自由に暮らし、自分で出来る喜びと、地域の中で安心して暮らしていくことを目指す」という施設長の思いを理解し、日々実践に向けて努力している。また、職員は一方的なケア提供者ではなく利用者のパートナーであることを認識し、心配したりされたりの良い関係である。幼稚園児の慰問、小、中学校生の職場体験、コーラス、俳句会など、地域との交流も少しずつ図られている。併設のデイサービスでは、昔からの友人、知人との交流も活発で、理学療法士によるリハビリで身体機能の維持向上を目指している。健康管理も万全で、家族の信頼も厚いグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価時の改善点である「成年後見制度等の活用」「事故報告書と活用」「相談・苦情受付の明示」「入居者の金銭管理」については全職員が改善に向けて取り組んでいる。今後は、「運営推進会議を活かした取り組み」「運営に関する家族等意見の反映」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「災害対策」などに取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、会議の中で施設長、管理者、職員で話し合い、出された意見をもとに管理者がまとめて作成している。また、施設長、管理者、職員は評価の意義をよく理解し、評価結果を回覧し、介護サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族、地域の代表、商工会代表、町の福祉課職員、ボランティア、ホーム代表者、施設長、次長、管理者、生活相談員で構成され、事業報告や行事のお知らせの他、活発な話し合いも行われ、会議で出された意見をサービスの向上に反映している。今後は、年間計画をたて、魅力ある会議となるよう議題を工夫し、運営推進会議を定期的開催することが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪や運営推進会議時等に、要望や意見を聴くように努めている。要望や苦情があった場合は、会議などで全職員で話し合い、ホーム運営やサービスに反映させている。今後は、意見箱を設置し、家族だけで話し合える家族会を発足し、家族の意見を反映し、運営を図っていくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	幼稚園児の慰問、小、中学校生の職場体験の受け入れ、また、小学校の運動会に出かけるなど、地域の行事にも積極的に参加し交流に努めている。地域の方たちの相談ごとや、要望なども気軽に受付、地域から信頼されるよう努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく(サービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている)	利用者の思いや意思を大切にし、地域の環境や自然を活かしながら、「自由でゆったりとした個別の暮らしを大切に」してもらおうという、事業所の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長、管理者、職員は理念をよく理解し、会議の場で理念について話し合いし意識付けを行い、理念の実践に向けて全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園児の慰問、小、中学校生の職場体験やボランティアのコース、俳句会の訪問等の受け入れや小学校の運動会に出かけるなど、地域の行事にも参加し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、施設長、管理者、職員で話し合い、出された意見を基に作成している。また、施設長、管理者、職員は、評価の意義をよく理解し、評価結果をサービスの向上に反映している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、地域の代表、商工会代表、町の福祉課職員、ボランティア、ホーム代表者、施設長、次長、管理者、生活相談員で構成され、事業報告や行事のお知らせの他、活発な意見交換の場として、改善に向けた取り組みが行なわれている。	○	今後は、年間計画を立て、出席者が又参加しなくなるような魅力ある会議になるように、議題などを工夫したり、運営推進会議を、定期的に開催していくことが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに、町役場の職員に入ってもらい、情報の共有化に努めている。また、グループホーム連絡協議会や事業所との交流会にも参加し、情報交換し、サービスの質の向上と、質の確保に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修会に参加し、成年後見制度については、内部研修を行い、理解を深めている。		この制度に該当する利用者はいないが、今後、必要になったときのために、パンフレットや資料を揃え、職員全員が理解し、利用者や家族等に、説明できる体制が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態やホームでの様子などは、家族の訪問時などに積極的に伝えている。金銭管理の報告については3ヶ月毎に、手紙で報告している。ホーム便りは作成していない。		利用者の日々の様子は日頃から写真にたくさん記録しているので、それらを利用して、利用者の暮らしぶりを伝えるホーム便りの定期的な発行が望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や家族の来訪時に、意見や希望を聴くように努め、家族の意見をホームの運営に反映させるために、働きかけを工夫している。	○	玄関などの目に付きやすい所に意見箱を設置し、家族同士で気軽に話し合えるように家族会を作り、家族の協力のもとにホーム運営に反映していくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は一年間ない。利用者や職員は、馴染みの関係であるため、異動や離職があったとしても利用者へのダメージは最小限に抑えられるように努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用にあたっては、性別、年齢などの制限はない。職員一人ひとりが生き生きと働けるように、社会参加や自己実現のための勤務ローテーション等に配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	会議や研修を通じて、人権について学び、共通理解をし、職員は「利用者は人生の先輩である」という思いで、利用者の尊厳を守りながら接している。近々グループホーム協議会でも研修予定である。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を確保し、研修に参加した職員が伝達研修をし、知識の共有を図っている。また、新人の職員は、ベテランの職員と一緒に組んで技術や知識を学んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町、田川市郡のグループホーム連絡協議会に加入し、ネットワーク作り、研修会や交流会等に参加し、他事業所との情報交換等で、サービスの質の向上に向けて取り組みをしている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ホームの見学や体験入居を通して、入居希望者や家族が納得し、安心して入居していただける様な取組みをしている。併設のデイサービスからの入居者が多いため、馴染みの関係は出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業のこと、タマネギの収穫の際のことなど、利用者に教えられることも多く、介護する側、される側という意識を持たずに、共に一緒に暮らしていくという関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけ、見守りの中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。意向の表出が難しい利用者に対しては、家族からの聞き取りや過去の履歴等で把握し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや意見を聴き、日々の関わりの中で課題を見つけ、利用者、家族、医師、職員の意見を出し合い、介護計画の作成に活かしている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、介護計画の見直しを行っているが、利用者の状況の変化に応じて、利用者、家族、医療関係者の意見も参考にし、職員間で相談し、その都度介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	病院への送迎、利用者の自宅周辺へのドライブなど、 可能な限り、利用者、家族の要望に応じて支援して いる。また、隣接のデイサービスセンターの利用者との交 流や、施設設備の活用、理学療法士によるリハビリな ど、事業所の多機能性を活かした支援をおこなってい る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、個別のかかりつけ医 の受診を支援している。緊急時には、ホーム提携病院 で対応し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	これまで数名のターミナルケアを経験し、利用者にと って何が一番良い支援なのかを、関係者間で常に話し 合いながら支援している。	○	重度化、終末期に向けた指針を作成し、利用者、家族、 医療機関と十分に話し合い、利用者、家族が安心して サービスを受けられるよう、全員で方針を共有していくこと が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、さりげな い言葉かけや対応に配慮している。また、個人ファイ ルは鍵のかかる棚に保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、利用者の健康状態や 希望、を大切にしながら、利用者の気持ちに寄り添っ た、その人らしい暮らしが出来るように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者一人ひとりの、心身の状態を見守りな がら、利用者と一緒に会話をしながら、食事の準備、 配膳、片付けを行なっている。		利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事をとることが 望まれる。
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望に合わせて、いつでも入浴できる 体制を整えている。また、随時シャワー浴を行い利用 者の清潔にも配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かし、玄関先の花の手入れ、野菜の栽培、洗濯物たたみなど役割分担をしている。また、俳句の会で句作を楽しんだり、お花見、外食など、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の農協ストアやコンビニへの買い物、散歩、外食、ドライブなど、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者一人ひとりの癖や傾向を把握し、見守りながら支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署の協力で、年に2回実施している。多くの職員がホームから5分以内の地域に住んでいるので心強い。	○	今後は、地域の人々の協力を得ながら、避難訓練を行い、また、災害時に備えて、非常食や飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや、カロリー計算をしながら献立を立てている。水分摂取についても、夜間の白湯やとろみ水など、水分を確保できるよう、支援している。		利用者ごとの食事摂取量、水分量のチェック表を作成し、一日の必要量を考え、利用者一人ひとりの状態を把握し、健康管理をしていくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用部分は、オゾン分解イオン脱臭機、空気清浄機で、空調に配慮している。ホームの広い庭は、施設長、職員の思いのこもったイングリッシュガーデンで、季節の花々やハーブで、利用者の心を和ませている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や写真、ぬいぐるみ、人形が持ち込まれ、利用者が家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう工夫している。		